

表現者にとってプリベンションは一種の障害である。しかしそれは障害として表現をばねでしまうのではなく、あくまでも表現を支える構造として検証可能な装置である。プリベンションを計画的に作り出すとは、それ故に障害のごとく立ち現れ、しかも障害は乗り越えられるよう計画された装置を作り出すことである。

プリベンションは阻止しかつ誘導するという両義的な性格を持つことになる。

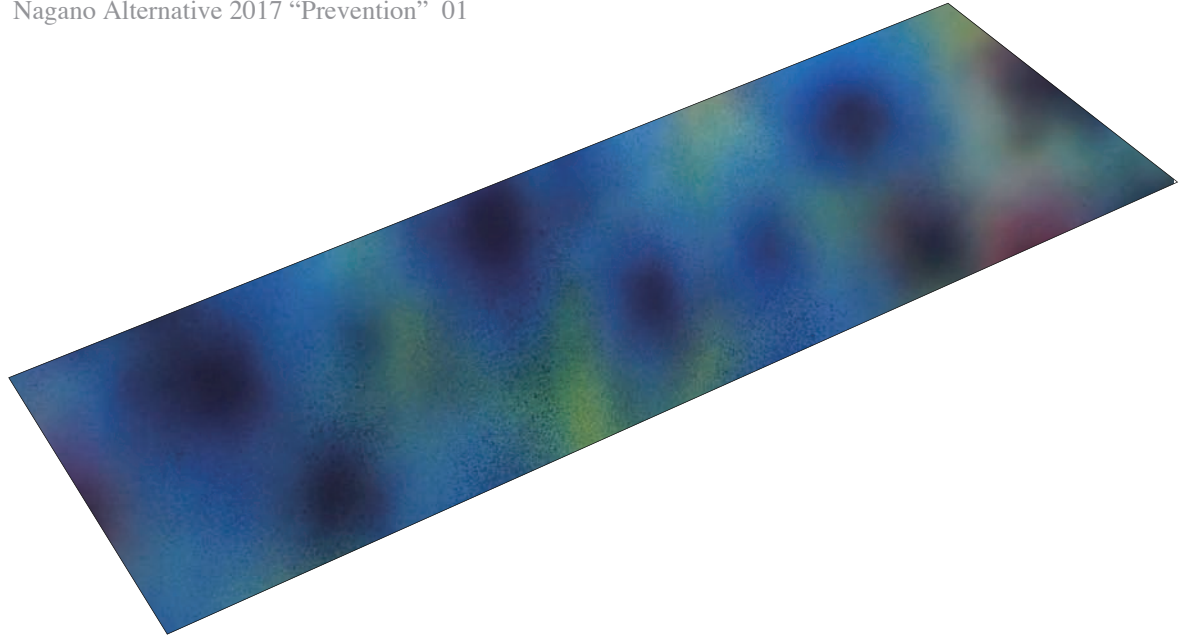
障害を乗り越えるのは作側の表現行為である。しかし見る側もまたなんらかの方法によってそれを克服できるような計画されていなければ、プリベンションは表現者の一人よがりになつてしまうだろう。

プリベンションは表現の媒介項であり回路である。それはまた同時に他者との回路でもあることによつてある種の客観性を持ち、解説可能な表現として作品のうちにふくまればならぬだろう。

作品の決定因がプリベンションとして作品に内在化され、作品はその内因性を、他者とのコミュニケーションの場とするだろう。

絵画はいま一度、その内因性によって語られる時代を迎えるだろう。

Contemporary Art Exhibition by the works of scale that correspond to FLATFILESLASH warehouse gallery.
Nagano Alternative 2017 "Prevention" 01



Masayuki Tokunaga - Scene of Light -

カメラとは似て非なる、人間の視覚、それに意味を持たせる知覚の事をよく考えます。どうあがいてもカメラのようにフラットになれない人間には、そこには存在しないものを感じる、イリュージョンを持つ能力が備わっています。絵画や彫刻をはじめ、あらゆる表現はそこから生まれるべくして生まれたのだとおもいます。月に兎は居なくても、そこはクレーターだらけの荒涼とした風景だと知っていても、人は月の姿を楽しみ、ほんの少しだけその姿が大きく見える満月の日には、見えた、見えなかったなどと一喜一憂したりしてしまいます。布を織って作られたキャンバスに、顔料を練って作られた絵の具で描かれたものが、観覧者の心の中で形作られるものは、物質ではなくなり、平面に形作られた空間になり、世界になります。90年代に観た、コメディックなSF映画「ギャラクシー・クエスト」は、抜群の科学力と、並外れて真っ直ぐな心を持ちながらも、コピーしか出来ない異星人サーミアンを通して、「嘘」を楽しむ生き物であることが、人間の創造の鍵だという示唆に満ちた映画でした。私が描こうとしているのは光であり、空間のようなもので、それ以上の何かをイメージして描いているわけではないのですが、作品が自分の手を離れ、観覧者の中で広がっていく事が重要だと思っていますし、自分にとってモアートを含めた全ての表現は、ある種の体験をするための装置なのではないかと思っています。今回の展示は90年代から現在に至るまでの作品を展示します。変化している表現と、変わらない軸のようなものが浮かび上がってくる展覧会になればいいと思っています。

徳永雅之

ナガノオルタナティブ - プリベンション -

徳永雅之 展

2017 7/1,2,6,7,8,13,14,15,20,21,22,27,28,29 - 14 DAYS -
12:00~17:00 ¥500-

▶ 2017 7/29 SAT ・16:00~ ギャラリートーク ・18:00~ テクノ・連協ライブ

森田亮 (G,Vln.Vo) 徳永雅之 (Dr) によるユニット

*ロジェ・ア・テーブル ¥1000-(入場+ライブ+お料理) *当日限

*ドリンク: FLATBAR (別途有料)

▶ 「徳永雅之 光の絵画」

トポスパブリック 2017-02: 7月~9月

@ 医療法人北島眼科クリニック 待合室

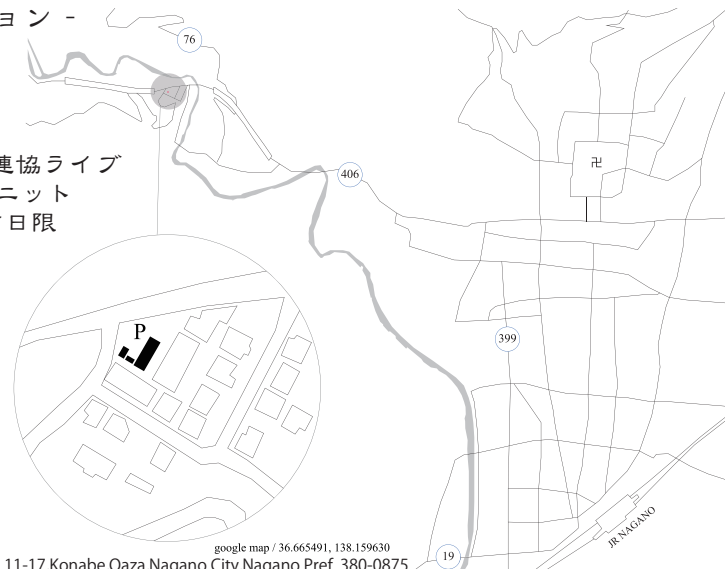
▶ *FFS ラウインジギャラリー: 川合朋郎ドローイング展同時開催



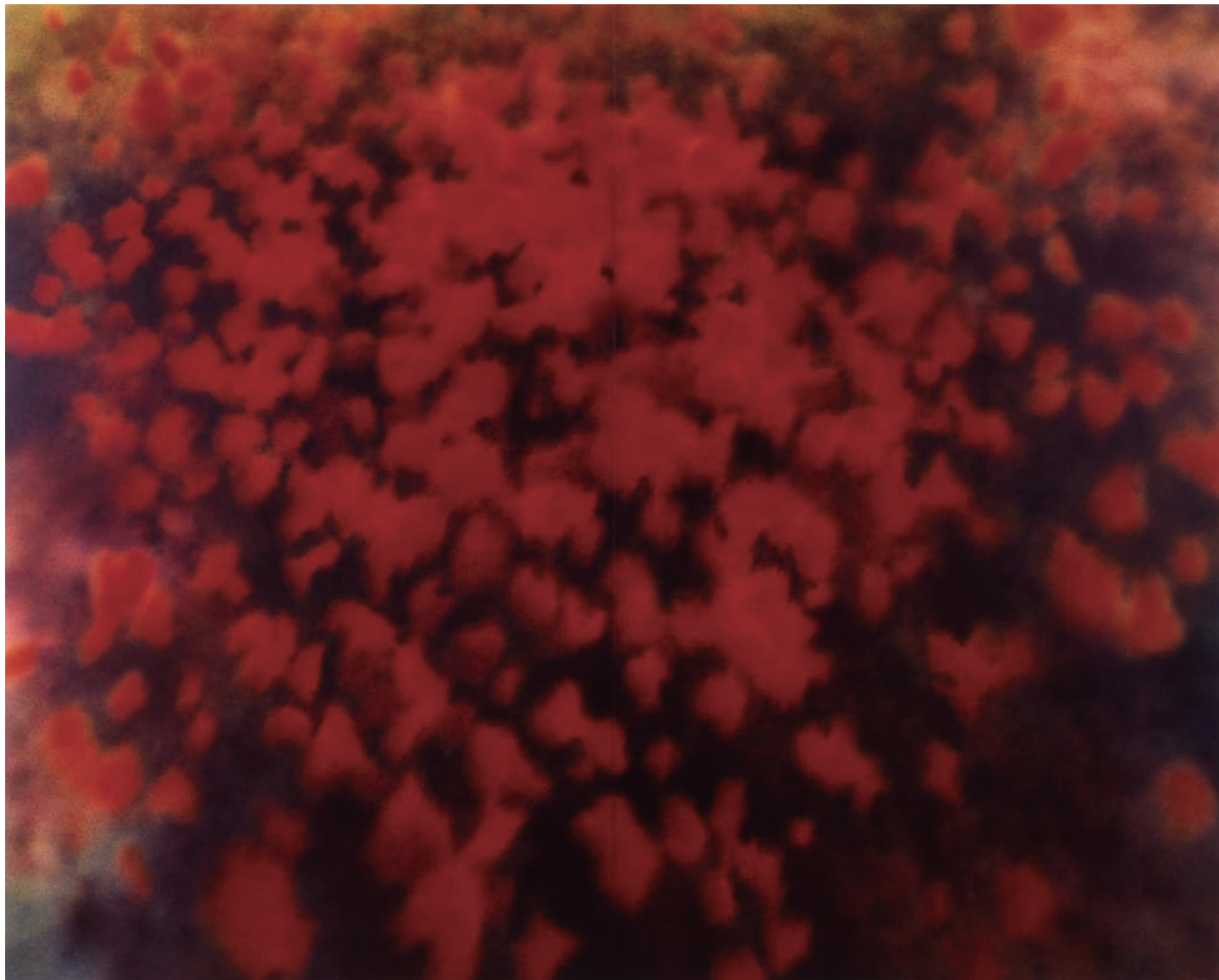
http://flatfileslash.com
gallery@flatfileslash.com

FLATFILESLASH / Warehouse GALLERY

▶ http://tokunagamasayuki.com
▶ http://toposnet.com
▶ http://naganoalternative.com
▶ inquire@naganoalternative.com



google map / 36.665491, 138.159630
11-17, Konabe, Oaza, Nagano City, Nagano Pref. 380-0875



「untitled」1994 1600x2000 mm アクリル 和紙(雲肌麻紙) パネル

徳永雅之 Masayuki Tokunaga
http://www.tokunagamasayuki.com

1960 長崎県佐世保市生まれ
1985 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
1987 東京芸術大学大学院美術研究科(修士課程) 壁画専攻修了

<主な個展>

1991 かねこ・あーと G1 (東京)
1991 ギャラリー美遊 (東京)
1993 ギャラリー-Q (東京)
1993 かねこ・あーとギャラリー (東京)
1994 ギャラリーなつか (東京)
かねこ・あーとギャラリー「新世代への視点 '94」(東京)
1996 ギャラリー-EL.POETA (埼玉)
1997 かねこ・あーとギャラリー (東京)
1998 ギャラリー日誌「SEQUENCE」(東京)
1999 ギャラリー-EL.POETA (埼玉)
2000 かねこ・あーと 2「memory」(東京)
2001 ギャラリー-EL.POETA (埼玉)「MONOCHROME WORKS」
2002 かねこ・あーとギャラリー (東京)
2003 かねこ・あーとギャラリー (東京)
2004 庭園ギャラリー-櫻守 (埼玉)
2007 ギャラリー-EL.POETA (埼玉)
2008 GALLERY APA (名古屋)
2011 ギャラリー健「The Scene of Light」(埼玉)
2012 「The Scene of Light」ギャラリー-枝香庵 (東京)
「The Scene of Light」KTN ギャラリー (長崎)
2013 Art Space 88 (東京)
2014 ART TRACE GALLERY (東京)
2016 ぎゅらりー由芽 (東京)
2016 ART TRACE GALLERY (東京)

<主なグループ展>

1993 「Visible Riddle'93」/ ギャラリー-Q (東京)
1995 「せわらかく置く」/ 埼玉県立近代美術館 (埼玉) / リーフギャラリー・オハイオ (95-96)
1996 「VOCA 展 '96」/ 上野の森美術館 (東京)
1998 「曖昧なる境界-影像としてのアート」/ O美術館 (東京)
1999 「新世代の軌跡」/ かねこ・あーと 2 (東京)
2001 「光とその表現展」/ 練馬区立美術館 (東京)
2003 「2003 高洋の眼展」/ 松坂屋美術館 (名古屋) 他 (~2004)
2004 「2004 高洋の眼展」/ 松坂屋美術館 (名古屋) 他
「色の博物誌・黄地の力&空の光」/ 目黒区美術館
「山本秀明・徳永雅之展」/ かねこ・あーと 2 (東京)
2005 「2005 高洋の眼展」日本橋三越本店 (東京) 他
2008 「さくらさくら展」庭園ギャラリー-櫻守 (さいたま)
2008 「PVAFF」(スコットランド)
2009 「MY Interaction 2009 大久保宏美 徳永雅之」Shonandai My Gallery (東京)
「二つの扉」徳永雅之+馬場健太郎 Gallery エル・ポエタ / 庭園ギャラリー-櫻守 (さいたま)
「U ポートが出会った4人の作家たち」アートギャラリー・CORSO (コロン) (東京)
2011 「えんぴつの宴」Art Labo. 深川いづく (東京)
2012 こづま美千子+高津美絵+徳永雅之「絵画から」ギャラリーなつか (東京)
2013 「Resonance 2013」森田画廊 (東京)
2014 「絵画と彫刻 徳永雅之×エサシトモコ」ぎゅらりー由芽・ぎゅらりー由芽のつづき (東京)
2015 「形象への眼差し、光景への眺め」アートトレイスギャラリー (東京)
2016 「広がる光・育ってゆく断片」徳永雅之×木田晋 ぎゅらりー由芽のつづき (東京)
2017 「どこかで会いましたね 2017」うらわ美術館 (埼玉)

<パブリックコレクション>

2000 特別養護老人ホーム「さくら」エントランスホール壁画制作 (東京)
2001 エンターテインメントクルーズ船「ROYAL WING」(神奈川)
2004 日本サムスン株式会社(プライベートコレクション) (東京)
2008 パークハイアット上海
2017 ソラリア西鉄ホテル京都プレミア三条鴨川

<著書>

2008 「Tayutau テルミンの小品と光の絵画 溝口竜也+徳永雅之」(共著) / 冬青社

「プリベンション」

ー「現代美術」は従来の美術の範疇から離脱して、別の範疇として考えねばならない表現行為となった。ー
とはじまる、宇佐美圭司氏(1940~2012)著作「絵画論」(1980年発刊)は、時代の空気を象徴的に明証する言葉が鏤められており、37年がすぎた現在でも、今を生きる者の背筋を矯正する力がある。

美術家を志望する者たちの「失画症」から進む「絵画論」には、自閉症の病例記録を引用し絵画論の理論展開へ繋げ、やがて「プリベンション」という概念が示される。これは、表現行為とそれをささえる知の中間に置かれる媒介項=装置として示されており、装置は感性に順応することによって形成されないと示される。美術表現には、見たまま感じたままといった個の感性に根ざした入口が待ち受けているのではなく、装置をつくることといった観念的で知的な操作が要求され、プリベンションによって感性が運動をはじめる場が設定されるのだと展開する。

「プリベンション」をテーマに2017年ナガノオルタナティブ1回目の企画展として、画家徳永雅之氏を招聘し、固有な表出展開(プリベンション)を行う画家の知性の中央に置かれたプリベンションとは一体何かを追求し見極めたい。

http://naganoalternative.com